

さくらそう通信



① 那須野ヶ原のサクラソウ自生地の遠望
(2000.5.9)



③ 湿原の中の排水路 (2000.5.9)



② 那須野ヶ原のサクラソウ群落 (2000.5.9)

サクラソウの自生地を尋ねて 磯田 洋二

1. 那須野ヶ原のサクラソウ自生地

日光国立公園にある那須岳は、はるか南の関東平野に向かって裾野を広げています。その広大で緩やかな裾野を「那須野ヶ原」と呼び、その中で標高の高い地域を特に「那須高原」と呼んでいます。那須野ヶ原は農業や牧畜業を中心に開拓されてきましたが、近年は避暑地として那須高原一帯での開発が盛んになり、たくさんの観光施設や別荘が作られて、大勢の人々が訪れる観光地になっています。

この那須高原の一角に、皇室の方々が静養に来られる那須御用邸があります。先の昭和天皇は植物分類学に精通されていて、那須御用邸で過ごされる時には付近一帯の植物の分類や分布の調査をなされ、その成果を生物学御研究所編「那須の植物誌」として1972年に保育社から発行されています。『那須の植物誌』には、口絵にサクラソウの美しい写真が載り、本文にサクラソウが那須野ヶ原に分布することが示されています。

そのサクラソウの自生地は那須御用邸から南東へ約2.5km離れた所にあつて、この場所に昭和天皇はしばしば通われ、調査研究に励まれたと伝えられています。そして、現在この場所は周辺に住む人々によって大切に保護されています。

このサクラソウ自生地は広さが約4haの湿地で、初夏から秋にはオギ-ヨシ群落が生い茂る湿性草原になります。そして、土地の所有者はここを採草地として使い、春先に火入れをして、秋には夏の間成長した植物を刈り取る方法で半自然の草原として管理しています。このように、広さや管理方法は田島ヶ原のサクラソウ自生地とほとんど同じですが、標高が約500mの高所というのが大きな違いです。

この度、私はサクラソウの訪花昆虫（花の蜜を求めて集まる昆虫）を調査するために、関係機関や土地の所有者の許可を得て、平成12年5月9日（2000年）に当地を訪れました。すでに、サクラソウの花は満開で、湿地の所々を紅色に染め、その向こうに白い雪を頂いた那須の山々が見えていて、その取合わせの風景が印象に残りました。（写真①、②）

[3頁に続く]

田島ヶ原の一年

「田島ヶ原サクラソウ自生地」は、大正9年7月17日に国指定の天然記念物となり、その後、昭和27年3月29日に特別天然記念物の指定を経て今日に至っています。現在は約4.12haの指定地内に150万株と推定されるサクラソウが、250種を超える他の植物と共に自生しています。

ところで、天然記念物としての指定を受けていると、人の手が一切入っていない土地という印象を持っている方が多いのではないのでしょうか。しかし、実際には自生地を護るための作業を年間を通して行っているのです。

そこで、「田島ヶ原の一年」を指定地の様子と、そこで行われる作業に焦点を当てて紹介しましょう。スタートはサクラソウが開花期を迎える3月です。

3月 サクラソウの芽が地上に姿を見せ始めるのは、例年ですと2月下旬から3月はじめの頃です。そして、菜種梅雨（なたねづゆ）になると一斉に芽が出揃い、早いものは3月半ば過ぎ頃から花を咲かせます。同じ頃、ノウルシやカントウタンポポなど、初春の花が田島ヶ原を飾り始めます。

指定地では柵や観察路を点検整備し、ゴミを片付けて、訪れる見学者を迎え入れるための直前の準備を完了します。

この頃になると、田島ヶ原の管理を担当しているさいたま市の文化財保護課には「サクラソウが満開になるのはいつですか」という問い合わせが増えてきます。田島ヶ原のサクラソウの場合、1個の花の寿命は10日前後です。サクラソウは群落ごとに花が咲き揃うのですが、咲き揃う時期は群落によって異なっていて、早咲きの群落の4月上旬から遅咲きの群落の5月上旬に至るまでのばらつきがあり、全体が一斉に満開とはなりません。したがって、「満開」という表現は似合わないので、「花の見頃は4月中旬です」と御案内しています。

4月 アマナ・アマドコロ・ヒキノカサ・ノウルシ・ムラサキケマン・ツボスミレ・ムラサキサギゴケ・ホトケノザ・カキドオシ・カントウタンポポなどの花が咲いて春を彩り、サクラソウは「花の見ごろ」を迎えます。そして、中ごろの日曜日に「さくら草公園」を会場として、「さくら草まつり」が開かれます。

この時期になると見学者は連日あとを絶ちません。見学者の多くは指定地を黄色に埋め尽くすノウルシの大群落に圧倒されるようで、「サクラソウは大丈夫なの」「サクラソウはかなり減っているのでは」という御質問をされます。そこで、「調査によると現在約150万株のサクラソウが生育しているとされていますが、ここ数年間は生育株数にほとんど変化はありません」と現況を御案内しています。

サクラソウの株数を把握するためには、昭和40年（1965）から毎年この時期に調査を実施しています。指定地内には10m四方の調査枠が11箇所設けられていて、その生育株数と開花株数とを実測して、その実数に基づいて指定地全体の株数や毎年の増減の状況を把握してい

るのです。（写真④）

なお、サクラソウの開花期には、警備員による監視を行っています。

5月 植物はぐんぐん生長し、サクラソウはその緑の中に沈んで、サクラソウ



④ 株数調査枠

の「花の見ごろ」は幕を閉じます。しかし、指定地全体の「花の見ごろ」は、実はこれから夏にかけてが本番といえます。それは、指定地に生育する夏草の多くが、これからの時期に花を咲かせるからです。

この時期にはブタクサ・オオブタクサ・セイタカアワダチソウ・カキネガラシなどの帰化植物もぐんぐん生長して、在来植物の成長を妨げ始めます。そこで、帰化植物の除去作業を行います。以前は指定地に生育していなかった植物なので、1本残らず除去するようにします。この時期は根ごと抜きやすいので、除去の効果が上がります。

なお、在来植物であっても、極端に繁茂して他の植物の生育を妨げるようになってしまう場合には、他の植物の生育を妨げない程度に除去します。近年ではハナウド・ナワシロイチゴ・カナムグラなどが、サクラソウの生育を妨げるようになりました。

6月 指定地ではノカンゾウ・ヤブジラミ・ノカラマツ・クサフジ・イシミカワ・ハナムグラ・ヒルガオ・ヌマトラノオ・コウゾリナ・キツネアザミなどの花が咲いて初夏を彩り、オギやヨシも人の背丈ほどに伸びています。サクラソウはその陰で種子を実らせて散布し、葉が枯れると休眠期に入ります。

この頃、指定地の草原はヨシキリやキジの鳴き声で賑わい、空にはカッコウの声が響きわたったりします。

帰化植物の除去作業は継続して行われます。

7月～8月 指定地は夏草の最盛期で、オギやヨシが人の背丈を超え、観察路を歩くのもためられるほどです。（写真⑤）帰化植物の除去や植生調査の際には、暑さと草いきれが加わって非常に厳しい状況になります。生い茂ったオギやヨシがつくる日陰は暗くて、多くの植物は生育できません。しかし、サクラソウにとっては生育を妨げ



⑤ 夏草に覆われる観察路